

—25年後に向けた職員提言—

博多区の将来像

平成23年8月

博多区職員提言検討チーム

はじめに

私たち博多区職員提言検討チームは、博多区の現状を踏まえ、5つのテーマに絞って25年後の将来像を検討しました。

25年後の博多区が、住みよい魅力あるまちとなるよう次のとおり提言します。

- 【将来像1】
地域への愛着を持ち、みんなが参加する活発なコミュニティがあるまち
- 【将来像2】
子どもや高齢者・障がい者に優しく、みんなが健康で生きがいを持てるまち
- 【将来像3】
夏涼しく、環境と共生するまち
- 【将来像4】
交通や防犯に関する基盤整備が進んだ安全で住みやすいまち
- 【将来像5】
変化に富んだ観光のまち

【将来像1】 将来像のイメージ

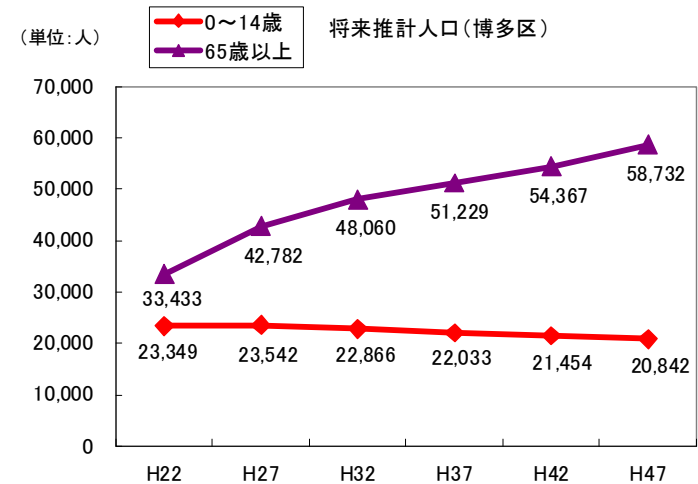
○地域への愛着を持ち、みんなが参加する 活発なコミュニティがあるまち

- 地域で育った人も、転入して来た人もみんなが愛着と誇りを持ち、ずっと住み続けたいと思うまち
- 住民一人ひとりが子育てから高齢者や障がい者の福祉まで関心を持ち、みんなが支え合って生活するまち
- 様々な人々の価値観やライフスタイルを認め合う、みんなに優しいコミュニティが形成されているまち
- 住民だけでなく、事業所もコミュニティの一員として活発な活動を行うまち

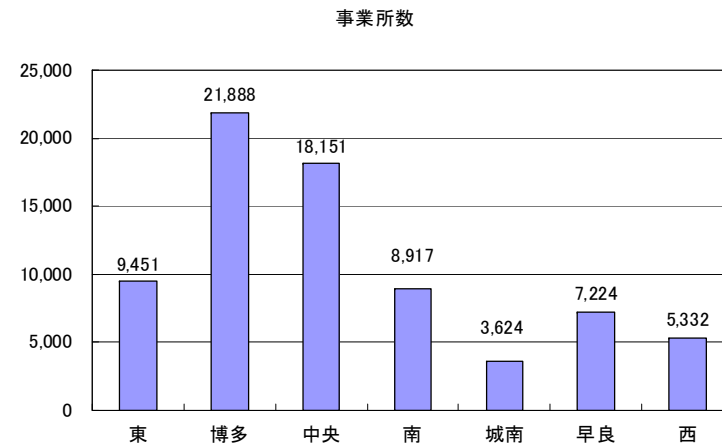


【将来像1】 現状と課題

- 高齢化の進行に伴い、元気な高齢者が増加
→高齢者のコミュニティへの参加を働きかけ、元気な高齢者の活力をボランティア活動などに活かす方策の検討が必要
- 博多区には、伝統的な祭りなどを介して地域のつながりが緊密な地域があるが、多くの地域では、都市化によりコミュニティの希薄化が進行。
→それぞれの地域の特色を活かしたきめ細かいコミュニティの活性化策が必要
- 博多区は集合住宅が多く、都心部では单身者向けのマンションが増加傾向
→集合住宅の特性を活かした住民のふれあい機会の創設などの検討が必要
- 博多区は7区の中で事業所数が最も多い。
→事業所も地域の一員としてコミュニティへの参加を促すことが必要



H22は9月1日現在推計人口、H27以降は国立社会保障・人口問題研究所の予測



平成21年経済センサス基礎調査

【将来像1】 取り組みの方向（提案）

- 元気な高齢者による子育て支援活動などの異世代間交流促進と子ども達への経験や地域の伝統の継承
- 社会参加意欲の高い高齢者や障がい者の積極的な地域活動参加の促進

〔具体的な取り組み〕

- 清掃などのボランティア活動への高齢者・子どもの共同参加
- 高齢者による公園での見守り活動などの子育て支援
- 子育てサロンやサークル等を利用した昔の遊びなどの伝承
- 高齢者による、子ども達を対象とした地域の特性を活かしたイベント開催（地域の文化財探訪など）
- 清掃など障がい者の地域活動への参加機会の拡大
- 特別支援学校や障がい者団体と連携した障がい者の地域コミュニティ参加促進

- 誰もが参加しやすいイベントや地域ごとの特色を活かした取り組みの推進

〔具体的な取り組み〕

- 地域情報のきめ細かい提供（特に転入者に対して）
- 学校での地域イベントへの参加呼びかけ→子ども及び子どもを通じた親世代のコミュニティ参加促進
- 地域活動への参加の際に地域や企業協賛の景品がもらえる仕組み作り
- 若者と子ども達が交流できるイベントの開催
- 公民館での語学学習など外国人と地域住民（特に若者）とのふれあい促進



【将来像1】 取り組みの方向（提案）

■ 共用スペースなどを活用した集合住宅でのコミュニティづくり

〔具体的な取り組み〕

- 集合住宅において生活する上で必要な情報提供（ゴミ出しルールや駐輪場の利用方法など）による転入者との接触の機会の確保
- 共用スペースでの地域情報発信などによる住民同士の接触の機会の拡大

■ 博多区への関心と愛着の醸成（地域で育った人も途中から転入してきた人も博多区をふるさとと感じてもらえるようなまちづくり）

〔具体的な取り組み〕

- 子どもの頃から博多区の住みやすさを繰り返し学習する機会を提供
- 博多区での住みやすさなどを転入者に理解してもらうための情報発信

■ 企業メリットなどを踏まえた事業所のコミュニティ参加促進

〔具体的な取り組み〕

- 事業所のコミュニティ参加の取り組みを地域広報で紹介するなどの仕組みを設けることによって地域ぐるみの清掃などへの参加を促進
- 地域の祭りや行事への参加を促進



【将来像2】 将来像のイメージ

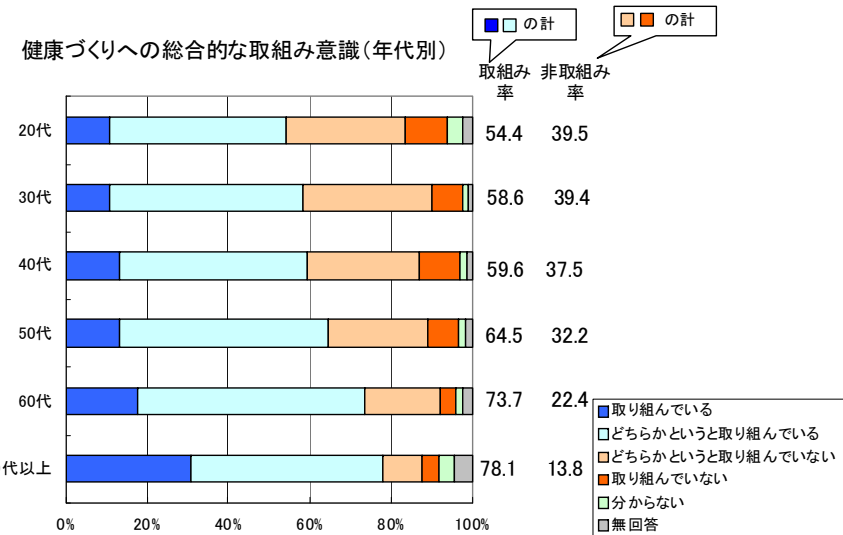
○子どもや高齢者・障がい者に優しく、 みんなが健康で生きがいを持てるまち

- 子どもや高齢者・障がい者の見守りが充実し、みんなが安心して生活できるまち
- 地域における高齢者や障がい者の社会参加が進み、みんなが互いに支え合い、生きがいを持って生き活きと暮らすまち
- 子どもが健やかに成長し、みんなが自分に合った健康づくりを行う環境が整備されているまち

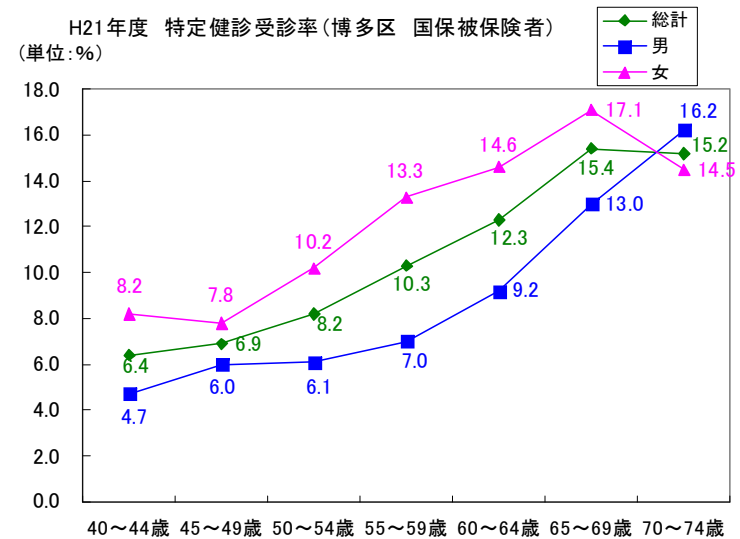


【将来像2】 現状と課題

- コミュニティの希薄化
 - 子どもや高齢者・障がい者を地域で支え合う見守り体制の構築が必要
- ファストフードへの依存や食生活の欧米化による子ども達の健康への影響
 - 食育への関心を高めて、子ども達の健やかな成長を促すことが必要
- 中年齢層、若年齢層は、健康問題を自分のこととして捉えていない人が多い。現在の中年齢層以下は、生活習慣に起因する様々な健康上のリスクを抱えており、将来、健康に不安を抱えた高齢者が増える懸念
 - 今のうちから生活習慣の改善に向けた啓発を強化する必要
- 食生活の改善や運動などの健康づくりは継続が困難
 - 楽しみながら健康づくりを行う環境整備が必要



平成22年度福岡市新・基本計画の成果指標に関する意識調査より



【将来像2】 取り組みの方向（提案）

- 地域における子ども同士のコミュニケーションや異世代間交流の促進
- 地域で子どもが安心して遊べる場の確保
- 社会参加意欲の高い高齢者や障がい者の積極的な地域活動参加の促進
- インターネットをはじめとする様々な媒体を活用した新しい見守りシステムの構築
〔具体的な取り組み〕
 - 高齢者による遊び教室や公園での見守り、子育てへのアドバイス講座などの体制づくり
 - 子ども達が遊ぶ公園近くに高齢者施設を建設
 - 見通しのよい安全な公園づくり
 - 公民館等の施設を利用した子どもの遊び場づくり
 - 清掃など障がい者の地域活動への参加促進
 - ソーシャルネットワークサービス等を活用した安否確認や地域の情報提供等

- 博多の健康的な郷土料理（がめ煮やおきゅうとなど）を活かした食育推進と食文化の伝承

〔具体的な取り組み〕

- 地域の公民館などを活用した高齢者から子育て世代への料理方法などの伝承
- 保育園の給食や高校の学食などでの郷土料理の積極的な提供
- 大学や調理専門学校と飲食店との連携促進による伝統食を利用したヘルシーメニューの開発・提供



【将来像2】 取り組みの方向（提案）

- メディアや企業を利用した生活習慣改善に向けた啓発

〔具体的な取り組み〕

- ツイッターなどの活用や会社員向けの健康情報誌の配布などによる働く世代に向けた情報発信
- 企業イベントとのコラボやテレビ・ラジオなどを活用した健康の大切さの発信

- 各年齢層が自分に合った健康づくりを継続できるよう、楽しみながら気軽に運動などができる環境整備

〔具体的な取り組み〕

- 公園整備において、高齢者も軽い運動ができるような設備を設置
- 体育館や公民館において、ヨガや太極拳など誰でも気軽に参加しやすい運動プログラムを用意
- 木陰を多くするなど外出するときに歩きたくなるような街並みづくり
- 各地域の見所を回るウォーキングコース（マップ）やランニングコースづくり



【将来像3】 将来像のイメージ

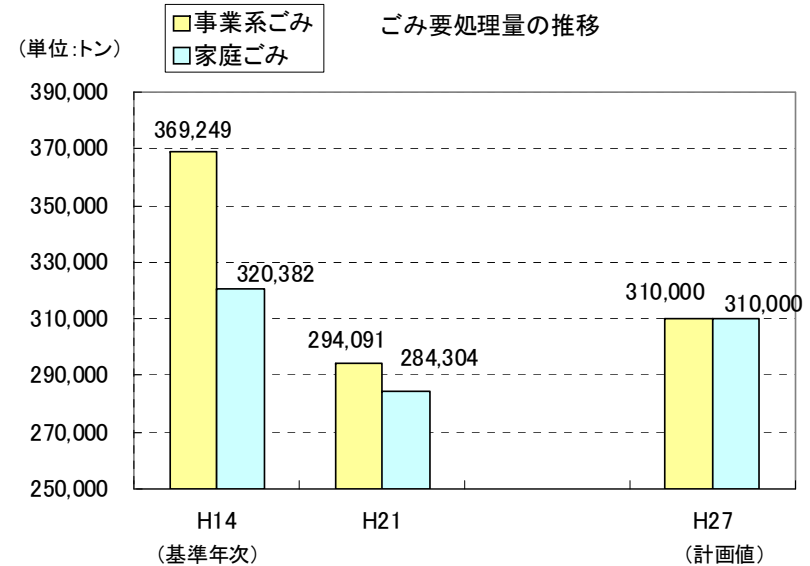
○夏涼しく、環境と共生するまち

- 緑、風、水といった自然の力を利用して、夏の暑さが緩和されているまち
- 家庭でも企業でも太陽光発電など再生エネルギーの利用が進んでいるまち
- ごみの発生抑制やリサイクルの取り組みが進み、循環型社会が構築されているまち



【将来像3】 現状と課題

- 博多区は都市化が進んだ地域が多くヒートアイランド現象の影響を大きく受ける
 - 熱中症など健康へも影響を及ぼすため、抑制に向けた積極的な取り組みが必要
- 東日本大震災をきっかけに、再生可能エネルギーの活用がクローズアップ
 - 博多区においても再生可能エネルギー発電の活用について検討する必要
- ゴミ処理量は、家庭系ゴミ、事業系ゴミ共に目標年次の数値目標を達成
 - この結果を持続させるため、引き続きゴミ減量と資源の再利用への取り組みが必要



「ふくおかの環境・廃棄物データ集 平成22年度」より

【将来像3】 取り組みの方向（提案）

- ①地表面被覆の改善、②人工排熱の低減、③都市形態の改善によるヒートアイランド抑制対策と人への影響を緩和する取り組み

〔具体的な取り組み〕

①地表面被覆の改善

- ビル、マンションの屋上緑化や壁面緑化
- 街路樹を樹冠の大きなものへ変更
- 屋外駐車場の緑化
- 道路を保水性の舗装に変更
- 人への影響緩和策として各所にミスト冷却装置を設置。特に大きな交差点やバス停など、多くの人が立ち止まる場所に優先的に設置。

② 人工排熱の低減

- 都心部での自動車利用の抑制
 - (危険走行や放置自転車等の問題の解決に取り組みつつ)自転車専用レーンや都心部の駐輪場の整備、自転車の共同利用などによる自転車の利用促進
 - 商業施設が実施している買い物額に応じた駐車料金サービスを公共交通機関利用料金サービスに変更して、マイカーから公共交通機関利用への転換を促進
 - 七隈線の博多延伸などを踏まえた公共交通機関のさらなる利用促進。
さらに、公共交通機関には、環境負荷が少ない電気自動車を導入。
- 建物からの排熱対策
 - 省エネ型空調の導入、過剰な空調運転の抑止、室内の明るさにより自動点滅する照明の導入、省電力型電気製品の導入
 - 人への影響緩和策として室外機を歩行者空間に向けないなどの取り組み

③ 都市形態の改善

- 道路や川などの風の道を活用して、木陰やミスト冷却装置などによる冷却効果を拡散

【将来像3】 取り組みの方向（提案）

- 環境意識の啓発などによる企業・家庭での再生可能エネルギー導入

〔具体的な取り組み〕

- オフィスビルや一般家庭の屋根での太陽光発電の促進
- 風力発電機の公園設置などによる環境意識の啓発（なお、導入にあたっては、景観への影響、騒音や低周波による健康被害等に係る市民の理解が必要）
- 企業イメージの向上などを目的とした、事業所の敷地や大規模駐車場などでの風力発電の促進
- 空港の緩衝地域を利用した太陽光発電

- 優遇措置などによる事業所のごみ減量促進
- 街中のごみのリサイクル推進
- 廃棄物のごみではなく再生可能な資源であるという考え方の普及

〔具体的な取り組み〕

- ごみ減量優良事業者に対する税制優遇措置
- ごみ減量優良事業者の表彰や公表
- 企業に対して容器等の回収を徹底させるとともに、実施企業への報奨制度創設
- 自動販売機や店舗前などの街中のリサイクルボックスの増設
- リサイクルボックスには外国人にも分かる分別マークを大きく表示



【将来像4】 将来像のイメージ

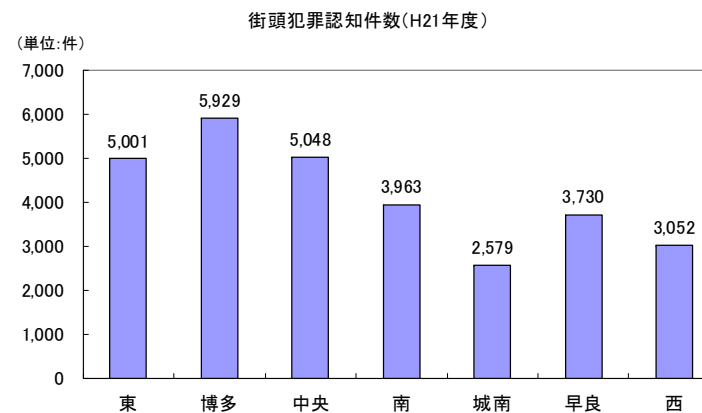
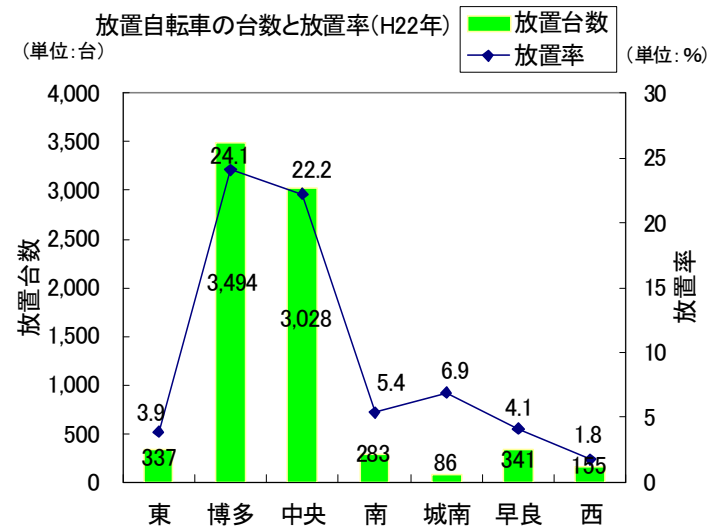
○交通や防犯に関する基盤整備が進んだ 安全で住みやすいまち

- 交通渋滞がなく、公共交通機関が利用しやすいまち
- 環境に優しい自転車の利用が進み、安全で快適に利用できるまち
- 犯罪が無く安全で安心して生活できる住みやすいまち



【将来像4】 現状と課題

- 博多区は陸海空の玄関口を擁し、事業所が集中していることなどから、慢性的な交通渋滞が発生している場所がある。また、博多駅の筑紫口側はタクシーや観光バスなどによって道路がふさがれる状態が続いている。
 - 道路整備や公共交通機関の利用促進による渋滞緩和の取り組みが必要
- 博多区は北部に交通拠点が集積していることなどから公共交通機関も北部から発達
 - 今後は南部を含め区全体の交通利便性の向上を図る視点が必要
- 環境負荷の軽減や交通渋滞緩和の観点から、自転車のさらなる利用促進が必要であるが、一方で放置自転車や歩行者との接触事故などの問題が頻発
 - 自転車の利用促進とともに、マナー改善や事故防止に向けた取り組みが必要
- 博多区は犯罪認知数が7区中最多
 - 犯罪防止に向けた取り組み強化が必要



【将来像4】 取り組みの方向（提案）

- 博多駅周辺において増加している来街者の利便性向上などの観点を踏まえながら筑紫口側の整備を実施
- 福岡空港周辺について、滑走路増設の検討状況を踏まえながら効果的な周辺道路の整備を実施

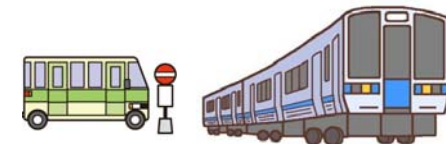
〔具体的な取り組み〕

- 筑紫口については、周辺敷地の一体的活用によって 交通利便性を向上
- 一体活用により生じるスペースを利用して大規模駐輪場を設置
- 福岡空港の滑走路増設の具体化に応じた道路拡幅や都市高速3号線の国内線ターミナルまでの延伸
- さらに、都市高速の東平尾公園付近への延伸による空港東南部の交通利便性向上やイベント時の渋滞緩和
- 空港周辺道路の渋滞緩和や空港の東西地域の交流を目的とした空港横断トンネル整備

- 南部の交通利便性の向上を図るため、南部の鉄道駅を拠点とした公共交通機関の結節機能強化

〔具体的な取り組み〕

- 鉄道との乗り換え利便性向上(改札口に近接した場所へのバスプール整備など)によるフィーダーバスの普及
- 交通事業者の協力による乗り継ぎ割引などのバス&ライド利便性向上策
- 既存バスネットワークの拡充やコミュニティバス導入などによるきめ細かいバス路線の設定



【将来像4】 取り組みの方向（提案）

■ 良好な自転車走行空間確保と危険走行や 放置自転車問題の解消

〔具体的な取り組み〕

- 歩行者や自動車との輻輳を避けるための
自転車走行車線の設置
- 自転車による危険走行防止
 - 自転車に乗り始める小学生のうちから
警察の協力による安全教育推進
 - 中学校、高校や専門学校等との連携強化
など若者の啓発・指導
 - 通勤での自転車利用も増加していることか
ら、事業所への協力依頼
- 引き続き鉄道駅周辺の放置自転車対策推進
- バスによるサイクル&ライドを推進して鉄道駅
への自転車集中を緩和。さらに、バス事業者
との連携により駐輪場料金の割引を実施

■ 道路、公園など公共建築物の形状の工夫や 防犯設備の充実

〔具体的な取り組み〕

- 細街路の拡幅や道路の直線化
- 地域と連携して樹木や建築物による死角を解消
- 細い道への街路灯、防犯カメラ、緊急通報装置
などの防犯設備の設置
- バイクによるひったくり犯罪防止のため、歩道と
車道の間には植え込みを設置
- 公園整備における死角の解消
- 公園トイレの周囲からの見通し確保と照明設置
- 違法駐車防止対策（道路上の違法駐車は、死角を
生みだし待ち伏せの原因となる）
- 通過交通対策（通過交通は、不審者や不審車両の
発見をしにくくするなど防犯機能の低下を招く）
- 深夜バスの増発や深夜乗り合いタクシーの利用
などにより深夜の一人歩き回避

【将来像5】 将来像のイメージ

○変化に富んだ観光のまち

- 歴史的な寺社や街並み、伝統文化が残るまちと、商業施設を中心とした都市型のまちの双方が特徴を活かした観光スポットに成長し、様々な年代の人が集まり楽しめる観光のまち
- 訪れるたびに、新たな発見ができ、また、地元の人達がおもてなしの心で温かく迎えてくれる、何度でも訪れたいまち



【将来像5】 現状と課題

- 博多は歴史的文化財や大規模商業施設といった個々の観光資源は多数存在するが、「博多＝観光地」というイメージを創りきれていない
→観光地としての魅力を高めるとともに地域におけるおもてなしの向上が必要
- 博多には伝統工芸が多数存在するが、一般に浸透していない
→土産物としてだけでなく日常生活への普及促進が必要
- 博多は電車などの利便性は良いが、車や観光バスでの来訪は不便。また、駅などから各所へのアクセスも不便。
→車や観光バスで訪れる場合の利便性と区域内の回遊性の向上が必要



【将来像5】 取り組みの方向（提案）

- 回遊路の整備やおもてなしの向上による観光地としての魅力づくり

〔具体的な取り組み〕

- 寺社を観光地として一般に開放
- 個々の文化財を結ぶ回遊路を整備。沿道にはうどん・そば、饅頭など博多発祥の食べ物を提供する店を出店。
- 土産物屋や飲食店スタッフの観光案内や語学などのおもてなしスキルアップ
- 地元高齢者によるボランティアでの観光案内
- 外国語の表示を充実
- 市民も簡単な外国語での案内ができるようにマニュアル等を作成

- 伝統工芸をブランド化し、アクセサリなど日常の身の回り品としての商品化

〔具体的な取り組み〕

- 地元出身の芸能人にPRの協力依頼
- 既存ブランドとコラボした商品開発

- 大規模駐車場の整備や博多駅などから各所への移動の利便性向上

〔具体的な取り組み〕

- エリア内に大規模駐車場を整備。駐車場には、土産物屋、休憩所、観光案内所を整備。
- 大博通りや明治通りからのアクセス確保
- 駅や港から各所への人力車やベロタクシー、レンタサイクルなどを整備

博多区職員提言チームメンバー

(50音順)

石橋 哲也	土田 松広
井上 亜沙子	鶴 等
上村 晃一	中島 隆敏
梅津 直人	新山 恵美
江崎 涼子	西村 忍
大内 一浩	原武 倫人
小崎 俊丈	宝満 剛
木庭 唱	松尾 一美
堺 和則	水清田 俊介
柴田 みゆき	宮藺 宇樹
白石 拓也	山口 慶
田川 裕美	

事務局:博多区総務企画課

永井 信 岡本 留美